

☆☆☆ミツバチ引き上げは、「4月28日(火)夕方」となります。☆☆☆
薬剤散布は、4月29日(水)以降に実施願います。

※不明の点がありましたら、各地区指導員にお問い合わせください。

今回の防除情報については下記の内容にてお知らせさせていただきます。なお、防除内容の確認を行い作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除層を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認してください。

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮し防除願います。
各園の生育ステージに合わせて適期防除に努めてください。

※コンフューザーは、各樹種とも5月3日頃に設置して下さい。

注意事項:展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース 10,000倍又はラビデン3S 10,000倍を使用する。

【も も】(防除暦 25~27頁参照)

【注意:春型枝病斑は見つけ次第せん除する!】

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
4	落花10日後 蜜蜂引上げ後 (4/29以降)	せん孔細菌病 黒星病 うどんこ病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 (カメムシ類)	合ピレ剤使用可能地域 1. マイコシールド 2,000倍 (50g) 2. トリフィン水和剤 2,000倍 (50g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g) 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. マイコシールド 2,000倍 (50g) 2. トリフィン水和剤 2,000倍 (50g) 3. アドマイヤー水和剤 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1. 今回、カメムシ類の発生が多い場合は、下記の倍数で使用してもよい。 ①合ピレ剤使用可能地域 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g) ②合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) アドマイヤー水和剤 1,000倍(100g) 2. アドマイヤー水和剤は蚕毒期間が長い(50日)ので、使用にあたっては十分注意する。 3. モモハモグリガ・アブラムシの重要防除時期なのでムラ無く散布する。		
5	5/9頃	せん孔細菌病・黒星病 うどんこ病 (シンクイムシ類・アブラムシ類) (カイガラムシ類・ハマキムシ類)	1. ICジンク 1,000倍 (100g) 2. コロナフロアブル 400倍 (250cc)	300ℓ
		1. ICジンクは、高温時に使用すると薬害を生じる恐れがあるため注意すること。また、隣接もも園へ飛散しないよう注意すること。 2. シンクイムシ類の発生が多い場合は、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)も使用する。 3. 前年、カイガラムシの被害が多い場合はアブロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。		
6	5/19頃	せん孔細菌病・黒星病・灰星病 (モモハモグリガ・ハマキムシ類) (シンクイムシ類・カメムシ類) (カイガラムシ類)	1. 展着剤 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 3. ジマンダイセン水和剤 600倍 (165g)	300ℓ
		1. モモハモグリガの発生が多い場合には、ディアナWDG 1万倍(10g)も使用する。 2. カメムシ類の発生が多い場合には、スミチオン乳剤 1,000倍(100cc)を今回散布後に使用する。 3. ジマンダイセン水和剤は、かぶれやすいので注意して使用する。		
7	5/29頃	せん孔細菌病 黒星病 灰星病 果実赤点病 モモハモグリガ シンクイムシ類 (カイガラムシ類) (アブラムシ類)	合ピレ剤使用可能地域 1. ICジンク 1,000倍 (100g) 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc) 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. ICジンク 1,000倍 (100g) 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 3. オリオン水和剤40 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. カイガラムシ類、アブラムシ類(コフキアブラムシ)の発生が多い場合は、今回以降トランスフォームフロアブル2,000倍(50cc)も散布する。 2. オリオン水和剤40は、あらかじめ少量の水に希釈してから使用する。		

【りんご】(防除暦 50~52頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	落花直後 蜜蜂引上げ後 (4/29以降)	斑点落葉病・うどんこ病 赤星病・黒星病・褐斑病 モニリア病・黒点病・炭そ病 すす点病・すす斑病・輪紋病 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ・アブラムシ類 ハマキムシ類・シンクイムシ類 コナカイガラムシ類・リンゴワタムシ (カメムシ類・モモチョッキリゾウムシ)	合ピレ剤使用可能地域 1. アンビルフロアブル 1,000倍 (100cc) 2. デランフロアブル 2,000倍 (50cc) 3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g) 【カルシウム剤】 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. アンビルフロアブル 1,000倍 (100cc) 2. デランフロアブル 2,000倍 (50cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 【カルシウム剤】	250ℓ
		1. ミツバチ、マメコバチなど訪花昆虫を利用しているので回収(引上)後に散布する。 2. シンクイムシ類、カメムシ類の発生が多い場合は、バリアード顆粒水和剤を2,000倍(50g)で使用する。 3. モモチョッキリゾウムシの発生が多い場合は随時成虫を捕殺するとともに被害果を採取して水づけにより完全に処理する。		
4	落花2週間後 (5/13頃)	褐斑病・斑点落葉病 黒星病・黒点病 赤星病・すす点病・すす斑病 炭そ病・輪紋病 果実の表皮障害防止 (ハダニ類)	1. 展着剤 2. ビタカルシウム55 90倍 (1,100g) 3. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) ★落花の時期は地域により異なるので、各園地の落花時期を参考に遅れないよう散布する。	350ℓ
		1. 落花2週間後の防除が遅れると、サビ果(薬害)等の発生する恐れがあるので適期防除に努める。 2. 昨年リンゴハダニの発生が多かった園地では、ダニオーテフロアブル1,000倍(100cc)~2,000倍(50cc)も使用する。 ①本剤は、銅剤と混用及び近接散布で防除効果が低下するおそれがあるので、銅剤との混用はさけること。 ②本剤を散布した後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔を空けること。 ③銅剤を散布した後は本剤の使用をさける。 3. 黒点病の重要防除時期なので、今回以降、降雨が続く場合はチオノックフロアブル500倍(200cc)を1週間後に散布する。		
5	落花30日後 (5/28頃) (早くなりすぎないよう注意。直径23ミリが目安です。)	赤星病・斑点落葉病 黒点病・黒星病・褐斑病 炭そ病・すす点病 すす斑病・輪紋病 シンクイムシ類・キンモンホソガ ギンモンハモグリガ・カメムシ類 リンゴワタムシ・アブラムシ類 カイガラムシ類・ケムシ類 (腐らん病・うどんこ病) (モニリア病(実腐れ))	合ピレ剤使用可能地域 1. アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g) 2. アブロードフロアブル 1,000倍 (100cc) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 【カルシウム剤】 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g) 2. アブロードフロアブル 1,000倍 (100cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 【カルシウム剤】	500ℓ
		1. 腐らん病の発生が見られる場合は、トップジンM水和剤1,500倍(65g)も使用する。		

【 な し 】 幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋・二十世紀・南水(防除暦 79~80頁参照)

★『黒星病』の芽基部病斑・発病葉・発病果実は見つけしだい除去し、園外に持ち出し適切に処分する★

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
4	落花1週間後 蜜蜂引上げ後 (4/30頃)	黒星病・黒斑病 シンクイムシ類 クワコナカイガラムシ アブラムシ類・カメムシ類	1. 展着剤 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	250ℓ
5	5/7頃	黒星病・黒斑病 ニセナシサビダニ アブラムシ類 カイガラムシ類・ハダニ類	1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g) 3. モベントフロアブル 2,000倍 (50cc)	250ℓ
1. 【共通】ユニックス顆粒水和剤は、オウトウ、ラ・フランスにかかると薬害を生じる恐れがあるので注意して散布する。 2. 【青ナシ】黒斑病の感染防止対策として、散布後できるだけ早く袋掛けを行う。				
6	5/14頃	黒星病・黒斑病 カイガラムシ類 アブラムシ類・(カメムシ類)	1. 展着剤 2. ファンタジスタ顆粒水和剤 4,000倍 (25g) 3. コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	250ℓ
1. クワコナカイガラムシの発生が多い場合、コルト顆粒水和剤を3日程度繰り上げ散布する。 2. 今回以降、カメムシ類の発生に注意し、カメムシ類の発生が多い場合はアドマイヤー水和剤1,000倍(100g)を使用する。				
※今回以降、散布間隔が10日間隔となるが、10日以上あけないよう注意する。また、規定の散布量を厳守すること。				
7	5/22頃	黒星病・黒斑病 (ハマキムシ類・カイガラムシ類) (アブラムシ類・ケムシ類)	1. 展着剤 2. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	250ℓ
1. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウ、ラ・フランスにかかると薬害を生じる恐れがあるので注意して散布する。 2. ハマキムシ類、カイガラムシ類、アブラムシ類、ケムシ類の発生が多い場合は、オリオン水和剤1,000倍(100g)も使用する。				

【 ぶ ど う 】 (防除暦116~117頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	蜜蜂引上げ後 展葉 5~6枚頃	晩腐病・黒とう病・べと病 (フタテンヒメヨコバイ) (チャノキイロアザミウマ) (カイガラムシ類・アザミウマ類)	1. 展着剤 2. ドーシャスフロアブル 2,000倍 (50cc)	200ℓ
1. フタテンヒメヨコバイの発生が多い場合は、グレーシアフロアブル4,000倍(25cc)を使用する。 2. クワコナカイガラムシの発生が多い場合は、トランスフォームフロアブル2,000倍(50cc)を使用する。				
4	5月中旬頃 展葉 8~9枚頃	黒とう病・べと病・晩腐病 褐斑病・灰色かび病・枝膨病 クワコナカイガラムシ若齢幼虫	1. 展着剤 2. オーソサイド水和剤80 800倍 (125g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	200ℓ
1. 晩腐病の重要防除期に入るので10a当り200ℓ以上、また散布間隔を10日以上あけないこと。				
★耕種の防除(特別防除)については、防除暦117頁を参照してください。				
5	5月下旬頃 開花前 展葉 11~12枚頃	黒とう病・べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・さび病・うどんこ病 チャノキイロアザミウマ・フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類・ブドウサビダニ	1. ジマンダイセン水和剤 1,000倍 (100g) 2. フルーツセイバー 1,500倍 (65cc) 3. コテツフロアブル 2,000倍 (50cc)	200ℓ
1. 今回からは、果実汚染(果粉溶脱)の恐れがあるので展着剤を使用しない。 2. コテツフロアブルは、収穫前60日なので早生種には注意する。				

【 お う と う 】 (防除暦 136~138頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
4	蜜蜂引上げ後 (5/5頃)	灰星病・褐色せん孔病・炭そ病 カイガラムシ類・カメムシ類 アブラムシ類	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. オーソサイド水和剤 800倍 (125g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	400ℓ
5	佐藤錦 収穫2週間前 (5/20頃)	灰星病・褐色せん孔病 黒斑病・炭そ病 ハダニ類・(カイガラムシ類)	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g) 2. カネマイトフロアブル 1,000倍 (100cc)	300ℓ
1. 灰星病、ハダニ類の重要防除時期なので、遅れないように散布する。 2. ナリアWDGは、洋なし(ル・レクチュエ)の果実及び、ぶどう(ピオーネ)の葉に薬害を生じる恐れがあるので、注意して散布する。 3. カネマイトフロアブルは、収穫前7日なので早生種には注意する。 4. カイガラムシ類の発生が多い場合は、コルト顆粒水和剤2,000倍(50g)も使用する。				
6	佐藤錦 収穫1週間前 (5/27頃)	灰星病・炭そ病・黒斑病 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類・カメムシ類	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 2. テッパン液剤 2,000倍 (50cc) 3. まくびか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
[オウトウショウジョウバエの重要防除時期]				

【 か き 】 (防除暦 148頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
2	蜜蜂引上げ後 展葉期 (5月上旬)	カキクダアザミウマ カキノヘタムシガ アザミウマ類	1. 展着剤 2. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	300ℓ
1. 合ピレ剤使用規制地域では、モスピラン顆粒水溶剤に替えてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。 2. オリオン水和剤は、あらかじめ少量の水に希釈してから使用する。				
特別 散布	開花直前	アザミウマ類 カイガラムシ類	1. 展着剤 2. コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	400ℓ
1. カイガラムシ類の重要防除時期になるので、発生が多い場合は必ず散布すること。 2. シロツメ草はアザミウマ類の中間宿主になるので刈り取る。				

【 す も も 】(防除暦 160～161頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	蜜蜂引上げ後 (4/29以降)	黒斑病 アブラムシ類	1. 展着剤 2. アグレプト水和剤 1,000倍 (100g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g) 1. 合ピレ剤使用規制地域ではモスピラン顆粒水溶剤にかえて、アドマイヤー水和剤2,000倍(50g)を使用する。	300ℓ
4	5/9頃	黒斑病 (カイガラムシ類幼虫)	1. 展着剤 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 1. ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取って、適切に処理する。 2. 前年、カイガラムシの発生が多い場合は、アブロードフロアブル1,000倍(100cc)も散布する。	300ℓ
5	5/29頃	シンクイムシ類 ハマキムシ類・ケムシ類	1. 展着剤 2. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc) 1. 合ピレ剤使用規制地域では、フェニックスフロアブルにかえてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。 2. オリオン水和剤は、あらかじめ少量の水に希釈してから使用する。	300ℓ

【 う め 】(防除暦 170～171頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	蜜蜂引上げ後 (4/29以降)	黒星病 アブラムシ類 (かいよう病)	1. 展着剤 2. コロナフロアブル 400倍 (250cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1. 例年かいよう病の発生が見られる園では、マイコシールド 1,500倍(65g:21日前まで)も使用する。 (収穫前日数に注意する)	350ℓ
4	5/9頃	黒星病 アブラムシ類 カメムシ類	1. 展着剤 2. コロナフロアブル 400倍 (250cc) 3. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 1. 小梅・白加賀は今回の散布で終了。 2. 合ピレ剤使用規制地域では、アルバリン顆粒水溶剤にかえてスミチオン乳剤2,000倍(50cc)も使用する。但し、小梅には使用しない。	350ℓ
特別 散布	5/24頃 (高田梅)	黒星病	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc)	350ℓ

【 ネ ク タ リ ン 】(防除暦 180～182頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
4	落花10日後 蜜蜂引上げ後 (4/29以降)	せん孔細菌病・黒星病 アブラムシ類・モモハモグリガ カメムシ類・シンクイムシ類	1. スターナ水和剤 1,000倍 (100g) 2. コロナフロアブル 400倍 (250cc) 3. モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g)	300ℓ
5	5/9頃	せん孔細菌病 黒星病 (カイガラムシ類)	1. 展着剤 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. マイコシールド 2,000倍 (50g) 1. カイガラムシの発生が多い場合は、アブロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。	300ℓ
6	5/19頃	せん孔細菌病・黒星病	1. 展着剤 2. デランフロアブル 600倍 (165cc)	300ℓ
7	5/29頃	黒星病・せん孔細菌病 ハマキムシ類・モモハモグリガ シンクイムシ類	1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	300ℓ

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に隣接している園地では十分注意して散布をお願い致します。